

小麦の家の紹介

小麦の家 施設長 片岡 洋子

平成5年、知的障害児を持つ保護者が「子供が将来、楽しく働ける場所があったら・・・」と考え、自宅にてクッキー作りを始めたのが『小麦の家』の始まりでした。以後20年間「地域に生かされ、地域に生きる!!」のスローガンのもと、地域住民とのつながりを大切に、利用者の方々の社会自立を支援して参りました。

そして今年度、NPO法人から社会福祉法人へ移行し『社会福祉法人小麦の家福祉会』として、新たな第一歩を踏み出したところです。新体制を整えるにあたり、たくさんの方々にご助言・ご協力を得ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、障害福祉の益々の発展のために尽力して参りたいと思いますので、ご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

《事業内容》

□クッキー等、焼き菓子の製造・販売

1袋200円のクッキーを中心に、季節のパウンドケーキ等、20種類近い製品を平均300袋/日のペースで、毎日製造しています。粉類のふるい作業や、クッキー絞り・丸め、そして製品の計量・袋詰め等、商品化するまでの製造工程に利用者全員がかかわっていただけるよう支援することで「〇〇〇は私がしたとよ〜♪」と、利用者の方たちも自信をもって販売ができています。

作業所にも商品陳列をしていますが、主に移動販売をしており、官公庁や一般企業等の皆様にご購入いただいています。また、市内の遊技場へも270袋/週を納品させていただいています。こういった配達や移動販売の中で、地域の皆様とふれ合う事で、利用者の皆さんは社会とのつながりを持つことができ、「仕事に対するやりがい」を感じています。



こぼさないよう慎重に粉ふるいをします。



カゴいっぱいクッキーを盛って、いざ販売

□特定信書便事業

平成19年、総務省の認可を受け、特定信書便事業の許可を取得しました。同年4月から現在に至るまで、伊万里市の公文書等を運送しています。毎週水・木曜日に区長さんや公民館へ、2班に分かれて配達をします。この仕事も、利用者が社会参加できる貴重な場となっています。

「おはようございます!」「市役所の文書をお持ちしました!」「ありがとうございました!」「失礼します」と、気持ちよく信書物を受け取ってもらえるよう、基本のあいさつを毎朝大きな声で練習しています。



区長さん宅へ、信書物を届けます。